
~タイタニック~

重巡とね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「タイタニック」

【Zコード】

Z4805Z

【作者名】

重巡とね

【あらすじ】

1912年、世界最大の客船タイタニック号が処女航海に出航した
小さな密航者とともに・・・
(不定期連載です)

ある少年少女の物語（前書き）

私の始めての作品です。
暖かく見守つてください。

ある少年少女の物語

皆さん船魂で知っていますか。？

船魂とは船に宿る精霊みたいなものでその姿は例外なしに若い女性の姿だと言われている。

見える人は靈感があるもの、波長が合つもの、船をこよなく愛するもの、など見える人は少数だとゆう。

1912年4月10日午の日タイタニック号がイギリスサウサンプトン港から出航した。

乗客乗員合わせて2000人以上が乗っている。
金持ちや赤ん坊を連れた人もいた。

だが誰もめったに入らない倉庫に息を潜めているものがいた。

この物語はある少年と少女の奇妙な出会いから始まる物語である。

ある少年少女の物語（後書き）

「意見」「感想お待ちしております

怪しい人影

1912年4月10日タイタニック号がサウサンプトン港から出航したが事件が起きた。

タイタニックが出航したとき、タイタニックの起こすスクリューの水流で客船ニューヨーク号が引き込まれそうになり衝突しそうになつたが、船長エドワード・・・スミスの迅速な行動で回避することはできた。

まさに間一髪だった。

4月11日その後タイタニック号はアイルランドのクイーンズタウンに寄航した。

貨物積み込み中・・・

? ? 1 「 なあ、本当にやるのか？」

? ? 2 「 当たり前だーここまで来て怖氣ついたか？」

? ? 1 「 そんなことない！」

? ? 2 「 なら行くぞ」

? ? 1 「 OK・・・」

今一人の怪しい人影が貨物層に潜入した。

それのある少女がみていた。

？？？ 3 バ面白そつなことがおきそつね。。。 サ

そう言つと彼女は、船内に消えて行つた。

怪しい人影（後書き）

「ご意見」「ご感想お待ちしております。」

豪華客船で密航・・・やつて玉籠ご（前書き）

タイタニック更新で～す

豪華客船で密航・・・そして出金

1912年4月11日正午タイタニック号はクイーンズランド港から出航した。

??「もう少ししつめてくれよ

??「無理言わないで、こっちも狭いのよ

タイタニック号貨物層の中でなにやら小声がしていた。

??「しかしよくこの豪華客船に乗り込めたなフェイ

??「ええ・・・ここに潜入するのは難しかったわねフォン

この一人の名前はフォン・フィールとフェイ・フィール

二人はこのタイタニック号に密航している。

読者の誰かと氣づいてゐる人とと思つが「」の一人は兄弟である。

フォンがお兄さんでフエイが妹である。

フエイ

{今言つのもなんだけど……}

フエイがこきなり切り出した。

フォン

{何だよフエイ}

フエイ

{うん……実はね……}

フエイが話そつとしたとたん……

？？「誰だーそこそこるのは」！

貨物層に怒鳴り声がはしる。

フエイ・フォン

(見つかった……)

二人は息を潜め身体を伏せた。

コツ、コツ、コツ、コツ

足音はフォン達のいる
木箱にちかづいている。

フェイ

「ちかづいてきたよフォン・・・」

フォン

「落ち着けフェイいいか1・2・3で飛び出すぞ」

フェイ

「うん・・・わかった」

フォン・フェイ

「1・2・3、それ」!!

二人が飛び出したとたん・・・

??.「きやあああああ

バタッ

フォン・フェイ

「え・・・きやあ」?

二人は悲鳴のするほうを見てみると少女が一人倒れていた。

フォン・フェイ

「この娘・・・誰」??

次回へ

豪華客船で密航・・・そして丑急ご（後書き）

「意見」感想お待ちしております。

密航者と船魂（前書き）

更新で～す

フェイ、フォン「時風のほうから言われたからとび蹴りいい」「！！！」

ブゲラツ！！！

作者肋骨、骨折www

密航者と船魂

フェイ、フォン

「「」の娘・・・誰」？」？

前回フェイとフォンはこの豪華客船タイタニック号で密航中、ある少女が倒れていた（正確に言つと「一人が逃げようとした時に驚いて倒れた）

フェイ

「ちょっとあなた大丈夫」？

フォン

「おいフェイ、起こしたら俺たちが密航者だつて事がばれるぞ」

フェイ

「でも、ほおつて置けないわ」

フォン

「・・・それもやつだな」

セツヒトとフォンはバックからひもを出した。

フェイ

「・・・その縄何？」？

フォン

「何って・・・この娘が暴れないようて縛るんだよ」

するとフェイが少し後ろに下がつて言った。

フェイ

「・・・亀みたいな縛り方しないでよ」

フォン

「するか！――てやうかどいで覚えた」？

「エイ
・・・秘密」

その後娘は縄でぐるぐる巻きにされた。

「エイ
で・・・」の娘がいたる

「エイ

「勢いで縛つたけどね~」

「う、うへん」
??

「エイ
あ、起きた」

娘は目を開けて自分が置かれている状況を見た。

？？

「・・・きやああ、ふぐつ」

フォンがとつれに口を押された。

フォン

「シ一、静かにしる」

？？

「ふはつ・・・あ、あなた達は誰ですか~私をビリシヨリヒコ~うん
ですか~」

娘は涙目になりながらフェイに向かって言った。

フェイ

「私たちは簡単に言いつと密航者見られたからには」で私たちと次の寄港地まで一緒にいてもらひつわ」

いや普通自分から名乗るか?

フエイ

「つるさい作者」

話がずれた。

？？

「み・・・密航者・・・」

娘は少しおびえていた。

それを察したのかフォンが話題を変えた。

フォン

「とにかく前は

？？

「わ・・・私はこのタイタニックの船魂タイタニックです」

フォン・フェイ

「「船魂」」？？

次回へ

密航者と船魂（後書き）

「意見」「感想お待ちしております。」

船魂のタイタニック

フォン・フェイ

「「船魂」」？

前回

フェイ・フォンは船魂と名乗る少女とであった

タイタニック

「はい・・・船魂です」

フェイ

「・・・そんなの信じられるわけないでしょ」！

フォン

「確かになか証拠を見せてもらわないとな」！

二人は信じられないみたいな顔をして言った

タイタニック

「証拠ですか・・・・・・痛いかもしれないんですけどいいですか」？

フェイ

「ええこのフォンが実験台になるからいいわよ」

フォン

「そろそろこの俺が実験台になる・・・・ってなんでだよ」！

フェイ

「だつて痛いのいやなんだもんそれとも何？妹を実験台にしようつての」？

フォン

「分かった分かった俺が実験台やつてやるよ（ここつめ・・・女で
ある事を楯にしやがつて）」

フォンは泣々実験台にされた

タイターック

「じゃ、じゃあやりますよ・・・」

そう言つてタイターックはフォンがいる場所の上を見た
すると・・・

ドスツー・ドスツー・ドスツー・ドスツー・ドスツー・ドスツー・

何かが刺さるような音がした

フォン

「ん? 何の音だ・・・?」

フェイ

「・・・フォ、フォン・・・う、後ろ・・・」

フェイが冷や汗をかきながらフォンの後ろを指差した

フォン

「へっ? 後ろって・・・」

フォンが後ろを向くと田の前に棒があつた
だがこの棒をよく見ると棒に何かがへばりついていた
よく見ると黒い物体が動き回っていた
その正体はゴキブリであった

フォン

フォンはその場から雄叫びあげて全力で疾走して離れた

フェイ

「本当に貴方は・・・」

タイタニック

「はい・・・船魂です」

次回へ

本当に次回へ

フォン

「あれ?
・
・
・
俺ほつたらかし
!?
」

船魂のタイタニック（後書き）

「意見」「感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4805n/>

～タイタニック～

2011年10月7日22時30分発行